

令和5年度 第2回 県居小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年7月31日（月） 13時30分から14時30分まで
- 2 開催場所 県居小学校 会議室
- 3 出席委員 早川大介、本多正明、中村恵美子、池田誠子、中西洋一郎、山田勝夫、  
稲垣美世子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 県居協働センター 桐澤祐貴
- 6 学校支援コーディネーター 中根理恵
- 7 学 校 小林延和（校長）、上村仁美（教頭）、中西啓介（教務主任）、  
馬淵広子（CS担当教員）、鈴木範子、北村久美子、大川博、伊熊繭子、  
長谷川泰大、鈴木早織、杉浦秀祐、内山賢亮、水谷美菜子、空屋美希、  
清水麻友子、佐々木葵、浜田元子、武田裕子、野呂帆、  
坂口千佳（CSディレクター）
- 8 教育総務課 堀田洋一（教育総務課）
- 9 傍聴者 金子利和
- 10 協議事項
  - （1）ビジョンの共有と中間評価
  - （2）グループ熟議
  - （3）全体熟議
- 11 会議録作成者 CSディレクター 坂口千佳
- 12 会議記録

司会の早川委員から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

次に司会から、議長に本多委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。
- 13 熟議
  - （1）ビジョンの共有と中間評価

中西教務主任から資料に基づき、県居小学校の児童に対して実施した令和5年度教育課程アンケートの結果報告があり、成果があったものと、課題についての説明があった。
  - （2）グループ熟議

上記アンケート結果から、課題だと思われる下記の3つの重点項目について、クラス担任と委員がグループ（低学年、中学年、高学年、支援級）になり、改善策について熟議を行った。

重点項目① 自分の考えを進んで書いたり、発表したりすることができる

重点項目② 県居小で学習していること（和歌作りや朗誦を含む）を自慢（誇り）に思う

重点項目③ 他の学級や学年の人たちと仲良く交流することができた

グループ熟議の中で、上記重点項目①②③について次のような意見があった。

●低学年グループ

- ① 間違いや失敗を恐れることなく子供たちが発表できるようなクラスの雰囲気作りが大事である。
- ② 押し付けでなく、子供たちが主体的に真淵先生について学びたいと思えるような言葉の投げかけが必要だと感じた。
- ③ 異学年交流は、共通の好きなものを取り組む活動と、お掃除のような‘やらなければならない’活動の2種類が必要ではないか。異学年の色々な児童と触れ合うだけでなく、担任以外の色々な先生と触れ合う機会も作って欲しい。

●中学年グループ

- ① 発表は、人前での発言が苦手な子もいるので強制すべきではない。しかし、少しずつ慣れていくために、朝の会などで昨日の出来事などの本人が話しやすい話題から人前で話す練習をしていくのが良いのではないか。
- ② 最初に賀茂真淵の人物像について学び、なぜ和歌を詠むのかということを理解すれば、和歌を詠む活動のマナー化が解消されるのではないか。
- ③ 1対1で異学年ペアを組んで活動を行っているが、子供たちの相性もあるので、ペアではなくグループにして活動を行うのが良いのでは。

●高学年グループ

- ① 発表は発言だけではなく、資料を作成して提示する事も1つの発表の形であるので、もっとタブレットの活用を進めていくのが良い。道徳の授業などは正解がないため、人前で話す練習ができるのではないか。また、最初から全体の前ではなく、ペア同士で発言することから始めて、スモールステップで発表に慣れていくのが良いと思う。
- ② 県居小で学んだ先輩達とは共通の繋がる話題がある。卒業生の声を聴くことにより、子供たちは県居小の良さに気付くのではないか。また、真淵先生だけではなく、地域の伝統、文化、歴史などを学ぶ事によっても県居小で学んだことを誇りに思うのではないか。
- ③ 少人数だからできる事、小規模校だからできるペア活動を今後も増やしていく必要がある。それが県居小で学んでよかったと感じる事に繋がると思う。

●支援級グループ

- ① クラスの雰囲気作りが重要。クラスを編成する際に、児童同士の関係性や環境、人数などきめ細かに考慮して編成することが大事だと思う。
- ② ずっとこの県居小の地域にお住まいの方々は、賀茂真淵先生についてよく知っているが、移住してきた方には馴染みがない。子供たちにだけ賀茂真淵先生や和歌について教えるのではなく、学校だよりで保護者の方にも紹介するのが良いのではないか。昔のように学習発表会で、賀茂真淵先生について触れるのも良いかもしれない。
- ③ 今のペア活動は、清掃活動が主だが、昔は異学年交流で焼き芋作りの活動があった。教師だけでは大変なので、地域・保護者の方々に協力していただき、ペアで取り組む楽しいレクリエーションの活動ができると良いのでは。

### (3) 全体熟議

クラス担任とのグループ熟議について、委員の方々から次の発言があった。

- ・ 昔から行っていた活動ができない事があり、コロナの影響が大きいと感じた。(山田委員)
- ・ グループ熟議での様々な意見を厳選して、少しずつでも改善して行ってほしい。先生方とお話をして色々な気づきがあった。先生方もそうであれば嬉しい。(早川委員)
- ・ 先生方から現場の生の声が聞けて理解が深まった。今後もこのような機会を設けて欲しい。(稲垣委員)

## 14 報告

本多委員より、7月8日に、本校の学校支援コーディネーター3名が、教育会館で行われた研修に参加し、コミュニティ・スクールの目的、概要、学校支援コーディネーターの役割について受講した旨の報告があった。

また、本多委員、学校支援コーディネーターの中根さんより、1学期の県居小サポーターの活動報告、及び2学期の活動についての説明があった。

1学期の県居小サポーターの活動は次のとおりである。

日付	学年	内容	サポーター人数
4月18日～	全学年	毎週火曜日 本の読み聞かせ	毎回5～7名
6月15日	2年	町探検の見守り	5名
6月22日	2年	町探検の見守り	6名
6月29日	6年	茶道体験の見守り	8名
6月30日	5・6年	環境委員会 草取り・苗植え	10名
6月12日 7月 3日	全学年	お話メロディー	
5月22日 5月30日 6月13日 7月 4日	全学年	図書室前 季節に合わせた掲示作り	毎回約8名
6月23日	全学年	記念館・県居協働センターに和歌の展示	8名

また、本多委員より、2学期以降の県居小サポーターの活動について、資料に基づき、説明があった。

さらに、県居小サポーターのルール作りを今後、学校支援コーディネーターで検討していく旨の報告があった。内容は、ボランティアの役割や守秘義務、人権についてである。

## 15 連絡

教頭から、次回会議は、令和5年10月20日(金)午前10時20分から県居小学校会議室で開催する旨の報告があった。